



# 第71回 九州・沖縄生殖医学会

学術集会長

井上 善仁

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 産婦人科部長

# ● 第71回 九州・沖縄生殖医学会 ●

日 時：平成26年 4 月27日(日)

評 議 員 会 8時45分～9時15分

総 会 9時15分～9時25分

会 場：**エルガーラホール**

福岡市中央区天神1-4-2

TEL (092)711-5017

学術集会長 **井上 善仁**

(国家公務員共済組合連合会

浜の町病院 産婦人科部長)

〒810-8539 福岡市中央区長浜3丁目3番1号

TEL 092-721-0831

# 学術集会長挨拶

## 第71回九州・沖縄生殖医学会の 開催にあたって



国家公務員共済組合連合会 浜の町病院  
産婦人科部長 井上 善仁

福岡では桜も満開の春を迎えております。

第71回九州・沖縄生殖医学会を、例年通りここ福岡市で開催できますことを大変嬉しく思います。九州沖縄地域から生殖医療に日々取り組まれている先生、培養士、看護師の方々にご参加頂くことで、実りある学術集会となりますことを信じて疑いません。今年も白熱した議論が展開され、内容の充実した学会となりますことを学術集会長として心より祈念致します。

今年はほぼ例年並みの44題の演題を頂戴致しました。演者の先生がポスター発表を希望された6題はご希望通りポスターとさせて頂き、残り38題を口演発表とさせて頂きました。不行き届きの点多々あるかと思いますがどうかご容赦下さいますようお願い致します。

昨年の本学術集会で琉球大学の青木教授がランチョンセミナーを取り入れられました。演題が多く、昼の休憩時間を充分取ることができませんのでこれは非常に良いアイデアであると思い、今年もこれを継承させて頂く事としました。最近悪性腫瘍に罹患した若年者の妊孕性温存に関する学問、いわゆる oncofertility が話題となっており、私自身も福岡県における生殖医療専門医、乳がん治療医、血液内科医、腫瘍内科医の連携を模索する活動を進めているところです。このネットワーク構築の流れの中で、本学術集会では乳がん患者の妊孕性温存に熱心に取り組んでおられる国立病院機構・九州がんセンターの乳腺外科部長である大野真司先生に「若年乳がんの医療 ―がん治療と妊孕性―」という演題で日本乳がん学会の oncofertility における取り組みなどについてご講演をお願い致しました。きっと興味深いお話が聞けるものと期待しております。

春うらかな福岡で、また皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

## 参加者の方へ

---

今回より、領収書兼用の参加章を参加受付にてお渡しいたしますので、参加章ホルダーに入れて会場内では必ずご着用ください。

- 1 参加費 4,000円
- 2 学会当日にはこのプログラムを持参してください。
- 3 質問がある方は予め質問マイクの近くに待機しておいてください。
- 4 日本産科婦人科学会専門医認定 A シール、日本産婦人科医会研修シールを発行いたします。当日ご芳名をご記入後、お受け取りください。後日配布は致しかねますので、ご注意ください。

## 日本生殖医学会生殖医療専門医の方々へ

---

九州・沖縄生殖医学会については、日本生殖医学会生殖医療専門医更新ポイントが10点加算されます。当日受付にて芳名帳をご用意いたしますので、ご記名をお願いいたします。

## 口演発表者の方へ

---

- 1 口演時間はプログラムでご確認ください。
- 2 発表は PC パソコンによる発表のみとさせていただきます。必ずパソコンをお持ちください。
- 3 発表時間は8分(発表6分・討論2分)です。時間厳守でお願いします。

## ポスター発表演者の方へ

- 1** ポスターはプログラムに掲載されている演題番号と同じ番号のパネルにご自身で添付をお願い致します。

掲示時間 — 8時45分～9時30分の間をお願いします。

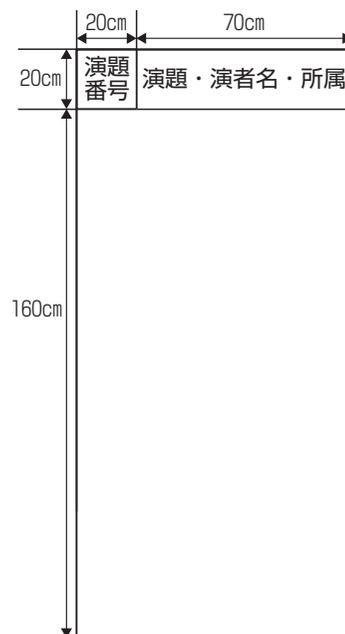
撤去時間 — 16時30分～17時の間に撤去してください。

## 2 注意事項

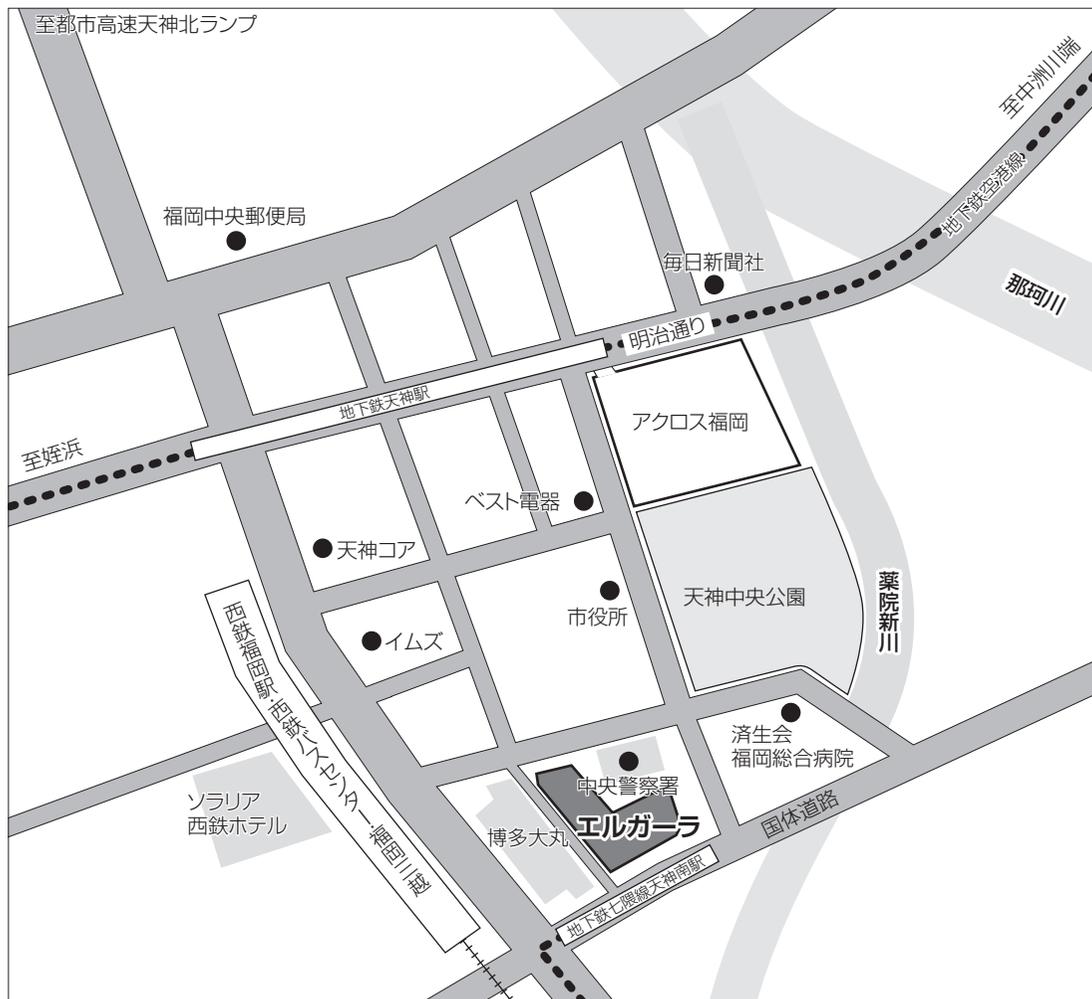
- (1) 最上部の演題番号は運営事務局で用意します。
- (2) 演題名、所属、演者名については横70cm×20cmで各自用意ください。
- (3) 演題名以外のパネルの有効部分は、横90cm×160cmです。内容の配置は自由ですが末尾には必ず結論を記載してください。

- 3** ポスター演題の発表時間の目安は1題6分(発表4分・討論2分)、2群同時進行とします。基本的には各群に座長をおき、進行は各座長の指示に従ってください。

掲示場所についてはHP上に掲載予定ですので、併せてご確認ください。



## 会場案内



- |               |      |          |          |
|---------------|------|----------|----------|
| ●地下鉄空港線天神駅より  | 徒歩5分 | ●JR博多駅より | タクシー約10分 |
| ●地下鉄七隈線天神南駅より | 徒歩1分 | ●福岡空港より  | タクシー約20分 |
| ●西鉄福岡(天神)駅より  | 徒歩2分 |          |          |
| ●天神バスセンターより   | 徒歩3分 |          |          |

# 第71回九州・沖縄生殖医学会 プログラム

日 時：2014年4月27日(日) 8時45分～

場 所：エルガーラホール

---

評議員会 8:45～9:15

総 会 9:15～9:25

開 会 9:25～9:30

学術集会長 井上 善仁(国家公務員共済組合連合会  
浜の町病院 産婦人科部長)

---

## 第1群 [心理・カウンセリング] 9:30～10:10

座長：小島 加代子(高邦会高木病院)

### 01 体外受精治療中の患者を対象とした性生活と日常生活についての意識調査

○二宮 陸、齊高 美穂、篠田 多加子、後藤 裕子、稗田 真由美、河邊 史子、  
宇津宮 隆史  
セント・ルカ産婦人科

### 02 卵子凍結における意識調査

○永井 由美子、立石 こずえ、内村 知佳、立野 恵、竹内 美穂、粟田 松一郎、  
竹内 一浩  
竹内レディースクリニック附設高度生殖医療センター

### 03 患者が望む ART 妊娠判定陰性時の看護

○江隈 直子、村上 貴美子、久保島 美佳、井上 静、大塚 未砂子、吉岡 尚美、  
蔵本 武志  
蔵本ウイメンズクリニック

### 04 治療を諦めた患者の聞き取り調査

○篠田 多加子、松元 恵利子、後藤 裕子、稗田 真由美、河邊 史子、  
宇津宮 隆史  
セント・ルカ産婦人科

### 05 当院治療中患者の特定不妊治療助成金制度に関する意識調査

○関 こずえ、岡田 清美、後藤 裕子、稗田 真由美、河邊 史子、宇津宮 隆史  
セント・ルカ産婦人科

---

## 第2群 [ART] 10:10～10:50

座長：本田 律生(熊本大学医学部産婦人科)

### 06 EmbryoScope による胚の発育動態を加味した胚分類と妊娠率の検討

○松田 和洋、末永 めぐみ、篠原 真理子、江口 明子、川崎 裕美、  
松下 富士代、山口 弓穂、伊藤 正信  
松田ウイメンズクリニック

### 07 当院における EmbryoGlue の有効性の検討

○佐多 良章、遊木 靖人、永野 明子、松木 祐枝、田尻 翔太、邑上 沙瑠子、  
岩政 仁  
ソフィアレディースクリニック水道町

### 08 胚盤胞凍結時における Artificial shrinkage の有効性の検討

○松木 祐枝、遊木 靖人、佐多 良章、永野 明子、田尻 翔太、邑上 沙瑠子、  
岩政 仁  
ソフィアレディースクリニック水道町

### 09 凍結融解胚移植(cryo-ET)周期における超音波診断法を用いた 子宮筋層厚と妊孕性の検討

○本庄 考、日高 直美、西村 佳与子、泊 博幸、愛甲 恵利子、詠田 由美  
IVF 詠田クリニック

### 10 Non-PCOS 症例のインスリン抵抗性が IVF-ET 成績に及ぼす影響について

○銘苅 桂子、糸数 修、安里 こずえ、平敷 千晶、金城 忠嗣、正本 仁、  
青木 陽一  
琉球大学医学部附属病院

---

## 第3群 [ART・基礎研究] 10:50～11:22

座長：河野 康志(大分大学医学部産婦人科)

### 11 初期胚における多核の原因分析

○大津 英子、小池 恵、佐藤 晶子、城戸 京子、後藤 香里、熊迫 陽子、長木  
美幸、宇津宮 隆史  
セント・ルカ産婦人科

**12** MII期における紡錘体面積とICSI後の第一卵割時間を指標とした胚評価法の有用性について

○泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、池邊 慶子、竹原 侑希、早田 瞳、  
日高 直美、西村 佳与子、本庄 考、詠田 由美  
アイブイエフ詠田クリニック

**13** 初期胚品質評価のためのタイムラプス(Primo Vision)観察と胚呼吸量測定について

○後藤 香里、小池 恵、熊迫 陽子、大津 英子、宇津宮 隆史  
セント・ルカ産婦人科

**14** 細胞質置換におけるレーザーシステム導入の検討

○米本 昌平<sup>1)</sup>、高橋 如<sup>1)</sup>、加藤 由香<sup>1)</sup>、赤星 孝子<sup>1)</sup>、竹本 洋一<sup>1)</sup>、  
田中 威づみ<sup>1)</sup>、山口 貴史<sup>1)</sup>、御木 多美登<sup>1)</sup>、伊熊 慎一郎<sup>1)</sup>、永吉 基<sup>1)</sup>、  
田中 温<sup>1)</sup>、渡邊 誠二<sup>2)</sup>  
1)セントマザー産婦人科医院、2)弘前大学大学院 医学研究科生体構造医科学講座

---

**第4群 [高齢妊娠・poor responder]** 11:22～11:54

座長：銘苺 桂子(琉球大学医学部産婦人科)

**15** 40歳以上の高齢不妊患者に対して新鮮胚移植か凍結融解胚移植のどちらが有効か？

○小山 伸夫、小牧 麻美、山口 ゆうき、江崎 寛美、中村 千夏、宮本 恵里、  
木下 和雄  
医療法人 聖命愛会 ART 女性クリニック

**16** 40歳以上の体外受精妊娠例に関する検討

○石松 正也  
石松ウイメンズクリニック

**17** AMH 低値症例における EmbryoScope<sup>®</sup>を用いた胚培養成績の検討

○篠原 真理子、末永 めぐみ、江口 明子、川崎 裕美、松下 富士代、  
山口 弓穂、伊藤 正信、松田 和洋  
松田ウイメンズクリニック

**18** クロミフェン+FSH投与の低刺激排卵誘発法の検討

○永吉 基、田中 威づみ、山口 貴史、御木 多美登、伊熊 慎一郎、田中 温  
セントマザー産婦人科医院

---

ランチョンセミナー 12:10～13:10

座長：井上 善仁(浜の町病院産婦人科)

## 「若年乳がんの医療 ～がん治療と妊孕性～」

大野 真司 国立病院機構 九州がんセンター・臨床腫瘍研究部長

共催：□□□□□□□□□□

---

第5群 [ポスターセッション1] 13:20～13:38

座長：内田 聡子(浜の町病院産婦人科)

**19** hCG+rFSH 療法により自然妊娠した Kallmann 症候群の1例：  
精巣内エコーパターンの経時的観察

○成吉 昌一、辻 祐治  
天神つじクリニック

**20** 高齢妊娠・出産患者に対する看護師の関わり  
～ハイリスク因子をもつ高齢不妊治療患者に対する支援～

○今井 たかね、日高 清美、外島 あゆみ、谷口 美樹、増田 智恵美、  
山崎 真子、伊藤 正信、松田 和洋  
松田ウイメンズクリニック

**21** 培養士による個別の ART 説明での質問内容

○末永 めぐみ、篠原 真理子、江口 明子、川崎 裕美、日高 清美、  
外島 あゆみ、今井 たかね、平田 瑠美、伊藤 正信、松田 和洋  
松田ウイメンズクリニック

---

第6群 [ポスターセッション2] 13:20～13:38

座長：本庄 考(アイブイエフ詠田クリニック)

**22** 凍結融解胚盤胞移植反復不成功例に対する SEET 法の有用性の検討

○糸数 修、銘苺 桂子、安里 こずえ、平敷 千晶、青木 陽一  
琉球大学医学部附属病院

## 23 当院における凍結胚移植が出生児へ与える影響

○松下 富士代、末永 めぐみ、篠原 真理子、江口 明子、川崎 裕美、  
山口 弓穂、伊藤 正信、松田 和洋  
松田ウイメンズクリニック

## 24 機能性子宮内膜を有し子宮内膜症性嚢胞を伴った Mayer-Rokitansky-Kuser-Hauser syndrome の1例

○弓削 彰利、平川 東望子、矢野 光剛、西田 正和、河野 康志、楯原 久司  
大分大学医学部産科婦人科

---

### 第7群 [胚培養] 13:45～14:25

座長：松田 和洋(松田ウイメンズクリニック)

## 25 Fertilization Medium (cook 社) の使用経験

○古賀 美佳、西山 和加子、山本 新吾、塚崎 あずさ、小林 倫子、岩崎 聡美、  
佐護 中、有馬 薫、野見山 真理、小島 加代子、岩坂 剛  
医療法人社団高邦会 高木病院 不妊センター

## 26 ヒト胚の体外培養における細胞外(培地)至適 pH の検討

○早田 瞳、泊 博幸、國武 克子、内村 慶子、池邊 慶子、竹原 侑希、  
日高 直美、西村 佳与子、本庄 考、詠田 由美  
アイブイエフ詠田クリニック

## 27 分割期胚移植におけるヒアルロン酸含有胚移植用培地の効果について

○國武 克子、泊 博幸、内村 慶子、池邊 慶子、竹原 侑希、早田 瞳、  
日高 直美、西村 佳与子、本庄 考、詠田 由美  
アイブイエフ詠田クリニック

## 28 保存胚盤胞移植におけるヒアルロナン添加胚移植培養液の 使用方法に関する検討

○松尾 完、秋吉 敏明、南 志穂、西垣 みなみ、松崎 彰子、上田 泰子、  
松尾 恵子、佐藤 春菜、山口 敦巳、岡本 純英  
医療法人 ART 岡本ウーマンズクリニック

## 29 ART における培養3日目以降の集団培養が胚発生に及ぼす影響

○南 綾子、江頭 昭義、田中 啓子、峰 千尋、大坪 瞳、打田 沙織、水本 茂利、  
前田 祐紀、村上 正夫、大塚 未砂子、吉岡 尚美、蔵本 武志  
医療法人 蔵本ウイメンズクリニック

---

## 第8群 [内視鏡手術] 14:25～14:57

座長：藤下 晃(済生会長崎病院婦人科)

- 30** 子宮内膜症卵巣嚢胞エタノール固定術後の卵巣予備能の変化と腹腔内癒着の有無  
○河邊 史子、越光 直子、長木 美幸、宇津宮 隆史  
セント・ルカ産婦人科
- 31** 卵管峡部・膨大部における閉塞症に対する腹腔鏡下卵管開通法の検討  
○田中 温、田中 威づみ、山口 貴史、御木 多美登、伊熊 慎一郎、永吉 基  
セントマザー産婦人科医院
- 32** 当院での卵管鏡下卵管形成術(FT)の現況  
○大塚 未砂子、吉岡 尚美、村上 貴美子、江頭 昭義、蔵本 武志  
蔵本ウイメンズクリニック
- 33** 子宮鏡で子宮内異物(紙片)を確認し除去した続発性不妊の1例  
○北島 百合子<sup>1)</sup>、妹尾 悠<sup>1)</sup>、河野 通晴<sup>1)</sup>、平木 裕子<sup>1)</sup>、浜口 大輔<sup>1)</sup>、  
増崎 雅子<sup>1)</sup>、藤下 晃<sup>1)</sup>、蓮尾 敦子<sup>2)</sup>、宮村 泰豪<sup>2)</sup>、河合 紀生子<sup>3)</sup>  
1)済生会長崎病院 婦人科、2)みやむら女性のクリニック、3)長崎県健康事業団 病理部

---

## 第9群 [男性不妊] 14:57～15:29

座長：横山 裕(医療法人仁愛会 横山病院)

- 34** クラインフェルター症候群の発生機序に関する検討  
○御木 多美登<sup>1)</sup>、田中 威づみ<sup>1)</sup>、山口 貴史<sup>1)</sup>、伊熊 慎一郎<sup>1)</sup>、永吉 基<sup>1)</sup>、  
田中 温<sup>1)</sup>、竹田 省<sup>2)</sup>  
1)セントマザー産婦人科医院、2)順天堂大学 医学部産科婦人科学
- 35** 電気刺激及びバイオノマイシン・ピューロマイシン併用法によるヒト卵子活性化能の検討  
○森 麻理奈<sup>1)</sup>、高橋 如<sup>1)</sup>、加藤 由香<sup>1)</sup>、赤星 孝子<sup>1)</sup>、竹本 洋一<sup>1)</sup>、  
田中 威づみ<sup>1)</sup>、山口 貴史<sup>1)</sup>、御木 多美登<sup>1)</sup>、伊熊 慎一郎<sup>1)</sup>、永吉 基<sup>1)</sup>、  
田中 温<sup>1)</sup>、渡邊 誠二<sup>2)</sup>  
1)セントマザー産婦人科医院、2)弘前大学大学院医学研究科生体構造医科学講座

**36** 微少流体チップ (Microfluidic Sperm Sorter ; MFSS) 回収精子の DNA 損傷率 (DNA fragmentation index) に関する検討

- 伊東 裕子、城田 京子、小濱 大嗣、南 星旭、伊東 智宏、河邊 麗美、日高 直美、宮本 新吾  
福岡大学産婦人科

**37** 泌尿器科における男性不妊症外来の現状

- 横山 裕<sup>1)2)</sup>  
1) 医療法人仁愛会 横山病院、2) さぎやま泌尿器クリニック

---

**第 10 群** [不妊症・妊孕能温存] 15:29～16:01

座長：沖 利通 (鹿児島大学医学部産婦人科)

**38** ヒト未受精卵凍結の検討－ cryotop と cryotech との使用経験－

- 赤星 孝子<sup>1)</sup>、荒木 恵<sup>1)</sup>、竹本 洋一<sup>1)</sup>、田中 威づみ<sup>1)</sup>、山口 貴史<sup>1)</sup>、御木 多美登<sup>1)</sup>、伊熊 慎一郎<sup>1)</sup>、永吉 基<sup>1)</sup>、田中 温<sup>1)</sup>、楠 比呂志<sup>2)</sup>  
1) セントマザー産婦人科医院、2) 神戸大学大学院農学研究科動物多様性教室

**39** 当院における oncofertility の現況

- 西村 佳与子、本庄 考、日高 直美、泊 博幸、愛甲 恵利子、詠田 由美  
IVF 詠田クリニック

**40** 当院における着床前診断 (PGD) の現状と aCGH 導入に向けての考察

- 徳留 菜里、樽松 朋子、穂満 ゆかり、福元 由美子、瀬戸山 遥、黒木 裕子、竹内 美穂、粟田 松一郎、竹内 一浩  
竹内レディースクリニック附設高度生殖医療センター

**41** 染色体異常に起因する習慣流産に対し着床前診断を施行した 134 周期の臨床成績、流産物染色体分析および不均衡型胚の正診率の検討

- 伊熊 慎一郎<sup>1)</sup>、竹本 洋一<sup>1)</sup>、田中 威づみ<sup>1)</sup>、山口 貴史<sup>1)</sup>、御木 多美登<sup>1)</sup>、永吉 基<sup>1)</sup>、田中 温<sup>1)</sup>、竹田 省<sup>2)</sup>  
1) セントマザー産婦人科医院、2) 順天堂大学 医学部産科婦人科学

---

第11群 [一般不妊・その他] 16:01～16:33

座長：城田 京子(福岡大学医学部産婦人科)

**42 swim up 法と密度勾配法による IUI の成績の前方視的比較**

○江崎 寛美、小牧 麻美、山口 ゆうき、中村 千夏、宮本 恵里、木下 和雄、  
小山 伸夫

医療法人 聖命愛会 ART 女性クリニック

**43 高齢の挙児希望患者における一般不妊治療の有用性の検討**

○中島 章、寺田 陽子、神山 茂、佐久本 哲郎、徳永 義光

ALBA OKINAWA CLINIC

**44 卵子提供に伴う周産期リスク**

—当施設で経験した4症例からみえてくること—

○本田 智子<sup>1)</sup>、岡村 佳則<sup>1)</sup>、本田 律生<sup>1)</sup>、大場 隆<sup>1)</sup>、片渕 秀隆<sup>1)</sup>、田中 温<sup>2)</sup>

1)熊本大学大学院 生命科学研究部 産科婦人科学分野、2)セントマザー産婦人科医院

**45 不妊治療中に診断治療した、卵巣性索間質性腫瘍  
(セルトリ・ライディック細胞腫)の1例**

○神山 茂<sup>1)</sup>、栗原 みずき<sup>2)</sup>、中島 章<sup>1)</sup>、高山 尚子<sup>2)</sup>、寺田 陽子<sup>1)</sup>、  
田村 充利<sup>2)</sup>、佐久本 薫<sup>2)</sup>、佐久本 哲郎<sup>1)</sup>、徳永 義光<sup>1)</sup>

1)ALBA OKINAWA CLINIC、2)沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

---

閉 会 16:33～

九州・沖縄生殖医学会会長挨拶

植原 久司(大分大学医学部産科婦人科 教授)

次期学術集会会長挨拶

学術集会会長挨拶

井上 善仁(浜の町病院 産婦人科 部長)

# 一 般 演 題

## 01 体外受精治療中の患者を対象とした性生活と日常生活についての意識調査

○二宮 陸、齊高 美穂、篠田 多加子、後藤 裕子、  
稗田 真由美、河邊 史子、宇津宮 隆史  
セント・ルカ産婦人科

【目的】当院では、夫婦が適切に性生活が持っていることを基本とし治療を進めている。初診時オリエンテーションで、性生活はないが、夫婦仲の良さを強調する患者がいる。性生活と日常生活に対する夫婦の意識の変化を調査した。

【方法】2013年9月～11月に体外受精治療中の夫婦66組に当院作成の質問紙を配布。回収率は、女性92.4% (61名)、男性86.4% (57名)。平均年齢は女性38歳、男性40歳であった。

【結果】「性生活が持てない」と回答したのは、女性38.3% 男性22.9%。理由は、夫婦共に「仕事が忙しい」が最も多く、それに対し「夫婦仲がよいのでこのままでよい」が多かった。夫婦での対策は「特に何もしていない」女性62.5% 男性76.9%。「日常生活に満足している」女性67.8% 男性77.2%。治療以外の性生活は「重要視している」女性56.5% 男性63.2%。体外受精中の性生活の気持ちは「満足感・うれしい」が女性27.9% 男性28.1%であった。

【考察】日常生活に満足し、治療以外の性生活は夫婦にとって大切なものであるという認識が高かった。夫婦とも仕事が忙しく性生活が持ちにくい状況にあるが、それに対しての工夫は特に行われていない。性生活自体を軽視しているという回答も見られた。体外受精治療中は、タイミング時と比較して性生活に対して開放的になるという意見が多かった。適宜、情報提供などが必要である。

## 02 卵子凍結における意識調査

○永井 由美子、立石 こずえ、内村 知佳、立野 恵、  
竹内 美穂、栗田 松一郎、竹内 一浩  
竹内レディースクリニック附設高度生殖医療センター

【目的】今日、日本生殖医学会において加齢等の要因により性腺機能の低下をきたす可能性を懸念する場合、健常人においても将来の妊娠に備えて卵子を凍結保存しておくことが容認された。そこで今回各世代の女性が妊娠・出産・卵子凍結に関してどのような考えをもっているか意識調査を行ったので報告する。

【対象・方法】H25年5月～9月に看護学生1,001人(平均年齢19.0歳)、同年6月に当院が開催した不妊セミナー参加者183人(平均年齢33.7歳)、合計1,184人にアンケート調査を実施した。

【結果】出産可能な年齢は45～49歳までが多く、学生や40歳代においては17%が50歳でも出産が可能との回答であった。卵子の老化については各世代で認識はあるものの、卵子凍結を希望するかに関して学生は『希望する』が21%であったが、20歳代では46%、30歳代で52%と年齢が高くなるにつれて『希望する』が多かった。

【考察】学生において卵子凍結希望が少ないのは妊娠・出産に対して焦りが無いからだと思われる。これを受けて一般的な妊娠・出産可能年齢に対する知識不足を考慮し学校教育の場での取り組みも必要と考えられる。また、将来の妊娠に備えて卵子凍結を希望する依頼者へは本来25～35歳で妊娠することが理想であり、先送りを推奨するものではなくまた、妊娠・出産を保証するものでもないことを含めた適切な説明や十分なカウンセリングが必要だと思われる。

## 43 高齢の挙児希望患者における 一般不妊治療の有用性の検討

○中島 章、寺田 陽子、神山 茂、佐久本 哲郎、  
徳永 義光

ALBA OKINAWA CLINIC

**【目的】** 厚労省は2016年からの特定不妊治療助成金対象に年齢および回数の制限を決定したが、これは早めの挙児を考える契機になる一方、不必要にARTへ誘導する懸念がある。しかし、40歳代の一般不妊治療成績についてのEBMは乏しいのが現状であり、今回当院の症例からその累積妊娠について検討した。

**【方法】** 当院では、一般不妊治療からのステップアップを基本方針としており、H21年1月から25年4月に初診した不妊患者でH25年11月までを追跡し、40代(初診年齢40~44歳)で妊娠した症例について妊娠方法、その治療回数について後方視的に検討した。

**【結果】** 初診患者の23.6%(560/2370)が40歳以上であった。そのうち40~44歳が469人で、70例(14.9%)で妊娠成立した。内訳はタイミング法で38症例、AIHで28症例、ARTで11症例であった。各妊娠方法における治療回数の中央値はタイミング法で2回、AIHで3回、ARTで1回であった。妊娠まで要した期間の中央値は、タイミング妊娠者で4ヶ月、AIH妊娠者で8ヶ月、ART妊娠者で11ヶ月であり、すぐにARTを開始した卵管および男性因子の患者でも12ヶ月であった。

**【結論】** 40歳代でも治療適応を考え、徐々にステップアップすることは有用であり、少なくともタイミング法を2周期、AIHを3周期実施することを考慮してもよいと考えられた。

## 44 卵子提供に伴う周産期リスク —当施設で経験した4症例から みえてくること—

○本田 智子<sup>1)</sup>、岡村 佳則<sup>1)</sup>、本田 律生<sup>1)</sup>、  
大場 隆<sup>1)</sup>、片渕 秀隆<sup>1)</sup>、田中 温<sup>2)</sup>

1)熊本大学大学院 生命科学研究部 産科婦人科学分野、  
2)セントマザー産婦人科医院

**【目的】** 本邦における第三者卵子提供による妊娠・出産の実態は明確ではなく、そのほとんどは海外での卵子提供例と推定される。近年、国内にも卵子提供の支援団体が設立され、国内実施例の増加も予想される。今回、第三者提供卵子により妊娠が成立し当施設で周産期管理を行った4症例6周期において、生殖補助医療の実際や周産期管理まで含めた問題点について検討した。

**【症例】** 症例1は49歳の慢性腎不全と心不全を合併した4回経妊未経産女性である。46歳時に韓国での4胚移植で品胎妊娠が成立したが、合併症の増悪のため人工流産が選択された。その後、49歳時に米国での単胚移植により妊娠に至ったが、加重型妊娠高血圧腎症をきたし、妊娠36週で緊急帝王切開術が行われ、術後はICU管理を要した。症例2は早発卵巣不全に対し国内での単胚移植により2回の単胎妊娠が成立し、通常の周産期管理で健児を得た。症例3はTurner症候群の女性で、タイで3胚移植により双胎妊娠が成立し2健児を得た。症例4は早発卵巣不全に対し国内で母体の合併症精査が行われたのちに米国での単胚移植により妊娠成立し、健児を得た。

**【考察】** 海外での卵子提供は、安全な周産期管理に配慮した適応や移植胚数の決定がなされているとは考えがたい状況にあった。生殖補助医療に携わる医師やコメディカルは、卵子提供を希望する夫婦に対して、周産期管理上の問題点まで考慮した対応が求められる。

---

## 45 不妊治療中に診断治療した、卵巣性索間質性腫瘍(セルトリ・ライディック細胞腫)の1例

○神山 茂<sup>1)</sup>、栗原 みずき<sup>2)</sup>、中島 章<sup>1)</sup>、  
高山 尚子<sup>2)</sup>、寺田 陽子<sup>1)</sup>、田村 充利<sup>2)</sup>、  
佐久本 薫<sup>2)</sup>、佐久本 哲郎<sup>1)</sup>、徳永 義光<sup>1)</sup>

1) ALBA OKINAWA CLINIC、

2) 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

---

**【はじめに】** 卵巣性索間質性腫瘍は、約半数がホルモン活性をもち、そのひとつであるセルトリ・ライディック細胞腫(S・L細胞腫)は、多くはアンドロゲン産生性で、男性化や排卵障害の原因となり得る。今回、我々は、不妊症検査中に、軽微な男性化徴候から本症を疑い、診断治療し得た症例を経験したので報告する。

**【症例】** 32歳、未妊未産、3年不妊の挙児希望にて、当院を受診した。月経周期は、不整で、他院で排卵誘発の不妊治療歴があった。初診時に、軽度の陰核肥大と多毛を認め、USG上、左卵巣に3cm程度の高エコー所見を認めた。血中テストステロン値は、355.6ng/dl(10.8~56.9)と高値であり、その他のホルモン検査からは、クッシング症候群は否定的であった。MRIでは、正常大の左卵巣にT1強調画像、T2強調画像ともに低信号所見で明らかな造影効果を示す2.7cm大の腫瘍を認めた。術前診断は、左卵巣腫瘍(S・L細胞腫)とし、治療は腹腔鏡下左付属器切除術を行った。病理診断は、S・L細胞腫；高分化型であり、血中テストステロン値は、術後速やかに正常化した。術後1周期目の自然周期で妊娠成立し、現在妊娠継続中である。

**【まとめ】** 不妊治療中に、S・L細胞腫を診断治療し、早期に妊娠が成立した。軽微な男性化徴候を認識することが、卵巣腫瘍の治療ならびに不妊治療に役立つことを再認識した。

## 九州・沖縄生殖医学会 学術集会長一覧

---

- 第56回 2000年11月19日 岡村 均（熊本大学医学部産科婦人科学教室教授）
- 第57回 2001年4月15日 瓦林達比古（福岡大学医学部産科婦人科学教室教授）
- 第58回 2001年10月21日 嘉村 敏治（久留米大学医学部産科婦人科学教室教授）
- 第59回 2002年4月21日 嘉村 敏治（久留米大学医学部産科婦人科学教室教授）
- 第60回 2003年4月27日 永田 行博（鹿児島大学医学部産科学婦人科学）
- 第61回 2004年4月18日 中村 元一（浜の町病院産婦人科部長）
- 第62回 2005年4月17日 田中 温（セントマザー産婦人科医院院長）
- 第63回 2006年4月9日 宇都宮隆史（セント・ルカ産婦人科院長）
- 第64回 2007年4月22日 蔵本 武志（蔵本ウィメンズクリニック院長）
- 第65回 2008年4月27日 堂地 勉（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科生殖病態生理学教授）
- 第66回 2009年4月26日 檜原 久司（大分大学医学部産科婦人科学教授）
- 第67回 2010年5月9日 増崎 英明（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科産科婦人科学教授）
- 第68回 2011年4月24日 詠田 由美（IVF 詠田クリニック院長）
- 第69回 2012年4月22日 片瀨 秀隆（熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学教授）
- 第70回 2013年4月21日 青木 陽一（琉球大学大学院医学研究科環境長寿医学女性・生殖医学講座教授）
- 第71回 2014年4月27日 井上 善仁（国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 産婦人科部長）
-

## 第71回九州・沖縄生殖医学会

---

学術集会長：井上 善仁

発行者：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 産婦人科  
〒810-8539 福岡市中央区長浜3丁目3番1号  
TEL：092-721-0831（代表）

事務局：大分大学医学部産科婦人科学教室  
〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘1-1  
TEL：097-586-5922 FAX：097-586-6687

出版： 株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025